

「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【オンライン】

〈開催概要〉

日 時：令和5年8月29日（火） 18:30～20:00

会 場：オンライン（Zoom）

参 加 者：10名（傍聴者2名）

市出席者：市長、脱炭素社会推進課

事 務 局：市長公室秘書広報部広聴課

開催テーマ：地球温暖化対策について考えよう ～みんなでアクション とともに未来へ～

参加者との意見交換

●参加者

<発言1>

私はさいたま市中央区で工務店をやっていて、今、建物のZEH住宅（Net Zero Energy House。生活で消費するエネルギーよりも生み出すエネルギーが上回る住宅を指す。）に力を入れて取り組んでいます。家庭部門で温室効果ガスの排出量を66%削減してくださいと言われていています。さいたま市は、2022年4月に脱炭素先行地域に指定されたという話も聞き、それに向けて一生懸命やっていますという話をお聞きしたのですが、民間も一緒にやった方がもっとよくなると思います。例えば、鳥取県でもう既に省エネ住宅に対する補助金などの支援の仕組みが出来上がっています。また、省エネ住宅に一定の知識を有する会社の登録制度を行っています。さいたま市でも、鳥取県のような補助や登録制度を作るお考えはあるのか、お聞かせいただきたいなと思いました。

<発言2>

もうリタイアしているのですが、以前やっていた仕事絡みのことがありますので、公共交通について、お話したいと思います。

市内を走っているバスやタクシーが、かなり二酸化炭素を出していると思います。それについて、事業者が個別に対応するのは厳しいので、市として全車両に補助金を出すなどして電気自動車化を進めると、非常に先進的な市になると思います。

もう一点ですが、プライベートの車で電気自動車を使いたいとは思いますが、充電ステーションがなかなかありません。さいたま市の場合、大規模なマンションが結構できていると、立体駐車場という理由で、なかなかうまく充電ステーションが使えないということがあります。個別の車の購入には補助金が出ていると思うのですが、立体駐車場等に対する充電ステーションの補助金があれば、より進んでいくと思いますので、御検討願えればと思っています。

<発言3>

私もさいたま市に住んでいて、埼玉県の中でも先進都市であることを誇りに思いながら、どんどん取り組んでほしいと思っています。

ただ、目標がすごく高いものですから、一つの施策ではなく、多角的にやらなければならないと思っています。

中でも、事業者に対する取組については、特に力を入れてほしいと思います。事業者に対しては補助金も出されていると思いますが、表彰などで、名誉みたいなのところもあると、積極的に取組がされるのではないかと思います。

あとは、理想なのですが、市民の方が頑張らなくても、勝手に生活していれば環境に優しいまちづくりというのは、事業者とつくっていくものだと思いますので、一丸となって取り組んでいけたらよいと思っています。

< 発言 4 >

「2050年カーボンニュートラル」を27年後と考えたときに、私の年齢では、60歳手前ぐらいになっています。まだまだ多分現役で働く世代で、子どもがいて、孫がいてというような、自分が想像できる2050年は他人事ではないと思えて、環境問題を真剣に考えるようになりました。

公共施設の屋根に太陽光発電設備を設置するなど、先進的な取組をしているさいたま市を誇らしく思っています。

今後重点的に取り組んでほしい分野として、透明な太陽光パネルの技術が出回り始めているのですが、さいたま市で導入できたら面白いなと思っています。

現在主流の太陽光パネルは、真っ黒なパネルで発電するものですが、透明なパネルはいわゆる可視光、ガラスのように光を通す太陽光パネルの仕組みです。例えば高層ビルの窓ガラスに設置すると、そのビル自体で発電ができて、まちが発電することができるようになるかもしれません。屋根に太陽光パネルを置くだけではない、他の電力供給ができるようになって、すごくわくわくして面白いなと思っています。

技術的には、インターネットで調べると、東北大学や京都大学、あと企業で言うとAGCや、日本板硝子が、山手線の高輪ゲートウェイ駅で実証実験をつい最近までやっていました。透明な太陽光パネルを設置して発電をする実験だったので、さいたま市の施設で実証実験をすることを是非御検討いただきたいです。

発電効率やコスト的な課題があるのですが、例えば新しく造る市庁舎や、今改修しているさいたま芸術劇場、その他にも例えば高速道路や幹線道路、JRの線路の上などにこういう技術を導入できると、もっと可能性が広がると思います。見沼田んぼの上とか、営農型でも何かできることがあると思っています。

◆市長

>> 発言 1

住宅建設のお仕事の中で、高断熱、高気密の住宅を造られているという理解でよろしいでしょうか。

< 発言 1 >

そうですね。高気密・高断熱のZEH住宅、ビルダー登録もしていて、取り組んでいます。

>> 発言 1

高気密・高断熱な住宅については、さいたま市も美園でスマートホーム・コミュニティということで、既にモデル的な住宅街区を官民連携で整備しています。冬でも室内の温度が15度以下には下がらないような住宅に、太陽光発電設備と蓄電池を設置し、太陽光で発電した電気をそのエリアでマネジメントしてまた提供していくもので、実際に50戸ぐらいの方々が住んでいます。

これは大変評価が高くて、環境大臣やアメリカの環境保護庁の長官が視察に訪れています。そういった取組を行っている中で、再生可能エネルギーを活用することも重要なので

すが、高断熱・高気密の家は、エネルギーの使用を抑える効果が非常に高いと私たちも認識しています。現在国でも、高断熱・高気密の住宅を積極的に造っていただく取組も始まっています。市としても単に再生可能エネルギーだけではなく、そういった住宅や施設を充実させていくことの必要性は非常に感じています。

鳥取県のお話がありましたが、鳥取県を含めいろいろな地域での先進事例なども参考にしながら、進めていきたいと思えます。

< 発言 1 >

埼玉県は晴天率が高いので、全国で比べても、太陽光による発電はとてもよいものだと思います。高性能な家が普及することによって、地球環境に貢献できるという思いで家づくりをしていますので、是非高性能な家を選択する方を増やしていただくと嬉しいなと思っています。

>> 発言 1

わかりました。ありがとうございます。

>> 発言 2

公共交通、特にバス、タクシーのCO₂の排出を防いでいくために電気自動車化を進めてはどうかという御提案をいただきました。

市の公用車については電気自動車化を進めたり、次世代型の自動車化を進めたりしているところですが、今後、公共交通の電気自動車化の促進も大変重要なテーマだと思っています。

タクシーの電気自動車化については、数年前に補助を交付していましたが、今後、公共交通の電気自動車化の支援策などについて一層検討し、また拡充していくことについても今後検討していきたいと思えます。

それから、個人の電気自動車の住宅充電器の問題については、さいたま市では2009年から電気自動車の普及促進でE-KIZUNA Projectを展開しています。電気自動車を普及させるには、充電器、また急速充電器の普及が大前提ということで、充電施設を市内に300～約200箇所設置をしています。国の方針としてもまだまだ足りないだろうと認識しています。設置箇所は多いのですが、例えば1台しか置けないと、長時間待たなければならないなど、課題があります。引き続き電気自動車を推進するためには、充電設備の充実が必要不可能になると思えますので、集合住宅への設置等についても、補助等についても今後検討していく必要があると感じているところです。

>> 発言 3

事業者に対する取組のインセンティブを更に拡充をしたらどうかということで、補助金や、表彰制度についてお話をいただきました。

事業者については、今は非常に電気代が高く、固定費の中で電気代が占める割合が非常に高くなっていますので、環境ということだけではなく、経営の安定化のためにも、事業者の電気製品をLED化したり、省エネのものに替えていただいたりするための補助制度などを昨年から行っています。引き続きやっていく必要があると思えます。

また、表彰制度についても、SDGsについては、登録制度や認証制度といったことを行っているのですが、脱炭素、カーボンニュートラルに限定した部分ではまだできていないので、参考にしながら進めたいと思えます。

もちろん市民の皆さんや事業者の皆さんの意識も変わっていただかなくてはいけない部分もありますが、基本は技術力を高めていく中でエネルギーの使用量を削減する、技術開発やデジタル化で二酸化炭素の排出を抑制していきたいと考えています。また、皆が電気を使うことに意識を持つことも大切です。美園エリアのモデル街区では、電気の使用量の見

える化をすることで、生活スタイルを少し変えると、安く電気を使えることがわかり、より一層効果が高まるという傾向が期待されています。技術革新等とあわせて、見える化についても取り組んでいきたいと思ひます。

>> 発言 4

30代、30代より若い世代の皆さんにとっては、社会の中で活躍をし、大きな役割を担っていく、そんな時期が2050年ではないかと私も思っています。だからこそ、若い世代の皆さんに、どういう意識を持って行動していただくか、考えていただくか、カーボンゼロシティをつくっていくためには、大変重要なことだと考えています。

その中で、透明の太陽光パネルという表現をされましたが、ガラスの中に電池を内蔵するという技術を御紹介いただきました。私たちが発電効率や費用対効果も含めて、十分に検討したいと思っています。ガラスにつけられると大きな効果になると思ひますし、あとは、電池も新しい技術が出てきています。蓄電池は現在価格が高いので、安くて高性能、しかも薄い電池が作られると、今後の脱炭素化に向けて大きな力になると思ひますので、実証実験も含めて、積極的にやっていきたいと思っています。

今まで私たちもいろいろな形で実証実験をやってきていますが、少しずつその結果を踏まえながら実装していく必要があると思っています。さいたま市の中や、さいたま市以外も含めて広げていくことも、意識として持っていきたいなと思ひます。

また、高速道路や線路の上、田んぼなどに設置する御提案をいただきました。可能性がある場所だと思ひます。都市部がゼロカーボンシティになるのは非常にハードルが高く、なかなか単独では難しく、また非常に高い目標であると私自身も感じています。その中で、極力、まず自分たちの力でやる部分と、他の自治体と連携をしながらやっていく部分をあわせながら、しっかり取り組みたいと思っています。

●参加者

< 発言 5 >

今後取り組んでほしいことについてお話しします。

まず、先ほど再生可能エネルギーの太陽光発電設備の話がありました。太陽光発電設備の問題点として自然環境に優しいエネルギーが作り出せるところはとてもよいと思うのですが、熱をとめて吸収してしまう話をよく聞きます。地球温暖化は、温度の上昇によって起こってしまうものと認識をしていて、熱を吸収して太陽光パネルの温度が上がることで、更に地球温暖化が進んでしまうのではないかと思っています。

あと、要望として、もっと地域に木々を植えてほしいということがあります。学校の授業の中で、二酸化炭素を吸収する能力があるのは木々だけだという話を聞きました。地球温暖化対策として、温室効果ガスの一つである二酸化炭素を削減することも大切だとは思ひますが、今ある二酸化炭素を吸収させることも地球温暖化対策になると思ひます。そのため、木々を切ってしまうと、地球温暖化対策の遠回りをしているような気がしています。

街路樹などを切っている場面を生活の中でも何度か目にしているのですが、どうして木々を切ってしまうのかなという疑問があり、その点について市長にお話を聞きたいです。

< 発言 6 >

今の方のことでプラスして、例えば、ニュースか何かで見たのですが、メルボルンやニューヨークなどの海外の都市なのですが、結構植樹により木を増やしていこうという計画がずっと続いているそうです。さいたま市としてもゼロカーボンシティを目指す上で、計画の中にどのように木を増やしていくかという内容が入っていると、日本の都市の計画ではあまり聞いていないので、あるとよいなと思ひました。もう一つは、再開発をしなけれ

ばいけない部分はあるのですが、それに伴って、ビルなどを建てると思います。ビルを建てるには、基本的に鉄とコンクリートを使うのですが、鉄1トンで1.8トンの二酸化炭素を排出するそうです。それがコンクリート1トンで約1トンの二酸化炭素を排出するという事なので、再開発をしてビルを建てることは、それだけどこかで二酸化炭素を排出しているということなので、開発する際にも、できるだけ二酸化炭素を排出しないものを使用して建てるか、開発の際には周りに木を植えるとか、条例で定めることも検討して、日本で一番進んだ、クリーンな都市を目指していただきたいと思います。

<発言7>

僕は建築の分野なのですが、今、お二方から木の話が出ていたのですが、木を使うことは、要は二酸化炭素をためられるのです。その後、切ったことによって新しく木を生やすということは、また二酸化炭素をためるという効果になって、それはすごく効果的です。なので、是非それは進めていただきたいなど、私もお話を聞きながら思いました。

あとは、さいたま市の取組があると思うのですが、脱炭素先行地域に指定されていることもあり、2050年に排出量をゼロにしなければいけません。それに対して、達成の目安を100%にはしないとイケないのだろうと思いますが、どれぐらいの達成見込みなのかを聞きたいなと思いました。

<発言8>

私も緑化を進めていただきたいと思っています。私は他の地域から5年前に引っ越してきたのですが、さいたま市は本当に暑くて、生活するのが困難だと思っています。

例えば、大宮駅西口のところも、一応木は生えているのですが、木陰になるほどではなく、照り返しもすごくつらいなと思っています。中央区だと駅前や、与野本町の西口はとてもすてきだと思うのですが、芸術劇場までの道は少し殺風景で緑化が進めばよいと思います。

現在でも、コンクリートの塀から木の塀にするための補助金が出ていたと思います。アイデアとしては、それに加えて、プランターなど、家庭菜園をするための補助を出すことを提案します。

もう一つは、小水力発電とか小風力発電について、美園の方で既にやっていたと思うのですが、もう少しそれも広げてもよいのかなと思いました。

<発言9>

一高校生としてのお話なのですが、現在、学校でタブレットの普及であるとか、プロジェクターの使用によって、おそらく学校内での電力量は相当大きなものになっていると思っています。そういった電気の使い道に関しては、今後どのような対策を取っていくのかなというのと、もう一つは、学生に共通する話だとは思いますが、まだ地球温暖化についてあまり関心を持っていない人が多いのではないかと個人的な見解を持っています。先ほど話されていた皆さんが、企業などに属していて、地球温暖化についても高い関心を持たれていると思うのですが、高校生は、授業で一旦、地球温暖化という課題を止めてしまいます。今後、高校生も取り組めることは少なからずあると思うので、その辺について詳しく聞かせていただけたら嬉しいです。

<発言10>

地球温暖化の影響というより、道路をコンクリートにすることによって、都市化の影響でヒートアイランド現象が起こると以前授業で習ったことがあるのですが、その対応に関してはどのようにするつもりですか。

◆市長

>>発言5

木を増やすことを非常に重要視してはどうかという話をいただきました。街路樹の整備を充実させる視点が重要ではないかという御意見をいただきました。

本当にそのとおりで、おそらくエネルギーを再生可能エネルギーに変えるとか、エネルギーの使う量を減らす考え方はもちろんですが、あわせて吸収する、緑を保全して、また増やして二酸化炭素を吸収してもらおうという発想も、すごく重要なことだと思います。

まちづくりの中で、特に駅前周辺は多少の緑はありますが、必ずしも緑は十分ではないと私たちも思っていて、かつグリーンインフラという言葉が出てきていて、緑をまちの中に増やしていく、活用していくことは、地球温暖化の問題にも対応できますし、これからの高齢社会、まちづくり、いろいろな視点から、大変重要なことだと認識しているところです。

特にまちづくりに当たっては、大宮駅周辺やさいたま新都心駅周辺、浦和駅周辺でもこれから建築予定としているビルなどでも、緑をまちづくりの中に取り込んで、多くの人たちが緑を見ることによってやすらぎを感じていただける、そんな場所にもしていかなければなりませんので、そういったことも含めて、取り組まないといけないと思っています。これは、非常に重要な視点だと思います。

それから、街路樹の問題もお話が出ました。その後の方からもお話があったと思います。街路樹については、特に秋口になると葉っぱが落ちて、枝を強剪定してくださいという御意見があったり、木は非常に大事なので切らないでくださいという御意見もあったりする中で、バランスを取りながらやっているところです。これから街路樹の整備や、都市の緑化をどう計画的に、また、総合的にしっかりとやっていくのかはすごく重要な視点です。特に都心部においては、少し今は変わってきていますが、街路樹でお店が見えなくなるのであまり木を植えてほしくない、こういったニーズもあります。例えば低い枝はなるべく少なくして、高く枝が張り出している部分を残すようにすれば、木陰もできるし、二酸化炭素の吸収にも生かせるのではないかなど、少しの工夫でまだまだできることはたくさんあると思います。

そして、エリアの緑をしっかり守り、また増やしていくことは、これから再生可能エネルギーを活用する、エネルギーの使い方を変えることに加えて大変重要な要素だと私たちも考えていますので、これからはしっかりと様々な管理計画も含めて、グリーンプランの拡充、緑の充実をやっていかなければいけないと思っています。

>>発言6

開発をしていくに当たって、どのように二酸化炭素の排出を減らしながら行うかは、すごく重要な視点だと思います。

今回のタウンミーティングは環境局が担当していますが、環境局だけがやる話ではなく、これからさいたま市の様々な施策を行っていく上で、二酸化炭素の排出を減らすためにどう工夫しながら事業をやっていくかが大切になります。エネルギーの効率化だけではなくて、資源の再利用など、いろいろなことに通じる話になると思いますので、それぞれの部署でやれることを、もっと掘り下げていく必要があると思います。また、脱炭素に向けて必要に応じてルール化をするなど、脱炭素の考え方をベースにしていろいろな政策を進める必要があると考えています。

>>発言7

木を活用して、また木をしっかり植えてという循環をしっかりさせていくことが、非常に重要なことだと思います。森林が手つかずの状態に残っていることは、今はあまりよいことではないと言われています。しっかり植林をしながら活用し、循環をさせていくことは非常に重要だと思います。

私たちも今、森林環境税で都市部としていろいろな補助をいただいています。公共施設の内装の木質化を図る、木を活用する取組もあわせて行っています。木を使い、手を入れながら緑を守っていく、こういう循環をしっかりとっていくことが大変重要だと思いますので、いろんな施策の中に反映していければと思います。

>> 発言 8

緑化については、特に駅前にはもちろん多少の緑はありますが、もっとあってもよいなど私も感じます。さいたま市としては、浦和も大宮も、もっと緑があっても、あった方がむしろさいたま市らしいという思いも持っていて、これから再開発し、新しいまちづくりをしていく上で、緑をどう整備し、また維持管理をしていくかは大きなテーマだと思います。

先ほど促進区域の話なども出ていましたが、そういった制度を活用することも考えながら、緑の保全等を十分に念頭に置きながら進めていきたいと思っています。

また、生垣についての補助制度はありますが、家庭菜園については、費用対効果なども含めて、どういったものに補助をしていくと、より効果が上がるかという視点も含めて考えていきたいと思っています。

それから、小水力発電については、今、水道局が取組を行っています。さいたま市は埼玉県から水道の水を買って、浄水場から配水していますが、その入り口で小水力発電を行い、電気の省エネ化をしています。おそらくもっとやれる場所があるのではないかと私も思います。

太陽光がベースにはなるとは思いますが、費用対効果も考えながら小水力、小風力ということも含めて、様々な再生可能エネルギーへの取組ということも考えていく必要があると思います。

>> 発言 9

今は、学校でのタブレットの使用が増えていますし、デジタル化が進むと、電気の消費量が多くなるのは、間違いないだろうと思います。もちろん、コンピュータなどのハードが省電力化していますが、おそらく電力は、このデジタル化の中でどうしても使う必要があります。またその消費量も増えているところもあると思います。

その中で、私たちとしては、使う分の電力についてはできるだけ、再生可能エネルギーで賄えるようにしていくことが必要だと思っています。

それから、高校生の地球温暖化に対する関心がまだ低いと感じたというお話をいただきました。

もちろん30代以上の人にとっても大きな問題ですが、30代以下の皆さんにとっては、特にこれから社会に出て、社会の中心を担っていかれる皆さんにとっては、地球温暖化の問題は非常に切実な問題になってくると思っていますが、まだ必ずしも関心が高くない状況があることも認識しています。学校教育の中で環境教育、地球温暖化防止なども含めて、どう教育と連携して皆さんに知っていただくか。危機感や、地球温暖化対策の様々な知識を共有していくことはすごく重要なことだと思います。

さいたま市でも、地球温暖化だけではなく、SDGsについて学校ごとにテーマをつくっていただいて、いろいろな取組や学習をしていただいています。まだまだ必ずしも十分な状況ではないとも思っています。若い世代の皆さんに、知っていただく機会を増やしていくことは重要だと思いますし、今後、教育委員会や学校と連携しながら知っていただく、学んでいただく機会を増やすようにしていきたいと思っています。そして若い皆さんからも、具体的な行動を起こしていくためのいろいろな提案をしていただき、一人ひとりの取組だけではなくそれを学校の中、市の全体、国全体に広げていくような、よい循環を生めるようにしていかなければいけないなと感じています。そういう意味では、学校教育、環境教育の重要性をすごく今感じています。

今回のタウンミーティングには、若い世代の皆さんがたくさん参加されて、関心は持っている人もいるが、まだまだ全体としては関心が薄いのではないかというお話があったり、もっと知る機会がほしいという声もいただきました。そういったことについても、更に取り組まなくてはいけないなと思っています。

>> 発言10

地球温暖化の道路の舗装について、要するにヒートアイランド化をする中で、市はどう取り組んでいるのかという質問をいただきました。それについては、今すぐは答えできませんが、透水性の舗装など、いろいろな取組を始めています。しかし透水性舗装だと長期間舗装がもたない、コストが高いなど、いろいろな課題もあるので、本当は、地面の中に水を吸収することによって災害にも強くなりますし、温暖化対策にもなるのだと思いますが、そういったことがまだ必ずしも十分にできていないと思っています。あとは、例えば駐車場にしても、全てコンクリート舗装するのではなく、例えば、車が止まる車輪のところはコンクリートでも、それ以外は芝生になっているなど、違う整備の仕方もあると思います。これからそういったことも含めて、きめ細やかな取組もあわせてやっていく必要があると思います。

いろいろ具体的な御指摘いただきましてありがとうございました。私たちもしっかり考えていきたいと思っています。

●参加者

< 発言11 >

先ほど、高校生の方から教育についてのお話がありましたが、国産の割り箸とかをもっと使ってみるのはどうかと思います。割り箸は使い捨てごみの代名詞のように世の中で思われているところもありますが、国産の割り箸は間伐材を使っていて、得た収益で森林を整備して、拡大するという形で、維持管理に使われるお金に流れています。国産の割り箸は、今は10%ぐらいしか使われていません。ほとんどが海外から輸入されている安い、環境にあまり配慮されていない割り箸が使われています。割り箸だけではないのですが、林業を守っていくとか、植樹につながっていくというような、日本の産業振興になるような活動の支援として、例えば学校給食に国産の割り箸を取り入れたり、さいたま市の食に関わる事業を適合する企業にあっせんしたり、補助金を出したりということも、切り口としては面白いかなと思いました。

< 発言12 >

地球温暖化の問題に関しては、本当に緊急事態になっています。この間、国連の事務総長が、もう地球温暖化は終わったと、地球沸騰化の時代だと仰っています。

地球温度が1.5度以上上昇すると、ロシアの永久凍土が溶け出してメタンガスが発生すると言われています。メタンガスは二酸化炭素の25倍の温室効果があるので、そうなると温暖化は止まらない、だから今しかできないという状況です。これに気づくかという、最終段階なのです。

このため、高校生の皆さん、是非お友達にそういう状況だということを共有して、皆で何とかやりましょう。今回さいたま市長にもお話ができたので、僕らは先導してやっています、特にさいたま市長はリーダーシップを持っていますということを是非皆さんに声かけていただくと、もっともっとさいたま市は、全国の中で素晴らしい市になるのではないかと思います。是非皆さん、若い力で一緒に頑張れたらよいなと思います。

◆市長

>> 発言11

今、非常に素晴らしいまとめがありました。国産の割り箸を使ってみたらどうかという御提案もありました。おそらくこれは1つの例で、例えば国産の割り箸を使うことで間伐材の利用についてビジネス化をして、林業や森を守り、適正に森に手を入れながら守っていくことにつながっていくというお話だったと思います。また、資源のリサイクルであったり、リユースであったり、産業全体、社会全体がそれぞれ脱炭素というキーワードの中で活動を1個1個見直して、具体的に取り組むことは非常に重要なことだと思っています。そういった取組とあわせて、その取組が何を意味しているのかを伝えながらやっていくことがすごく重要なことだと思っていますので、そういったこともあわせて検討していきたいと思っています。

>> 発言12

また、オンラインでのタウンミーティングのまとめになるような素晴らしい御意見をいただきました。

今やらないと本当に間に合わないのではないかと、最終段階で私たちが気づいて、どう取り組んでいくかということについて、もっと若い方々にも気づいていただかなくてはいけないし、私たちもしっかり先頭を切って取り組むことの必要性を再認識しました。

今年の夏は特に暑く、もう32度ぐらいだと、今日は涼しいというぐらいの状態になっていて、37度、8度、北海道でも30度超えが多く、農産物にも大きな影響が出ているというお話もあります。

生態系が変わり、私たちの生活が変わり、50年、100年に一回という雨が毎年のように降って大きな被害を日本中、世界中にもたらしていることの意味を、しっかり考えて感じて、次の手を打っていかねばいけないと思っています。

情報や危機感の共有、取組についても、市民の皆さん一人ひとりと共有していかなければいけないと思いますし、まさに地球沸騰化という中で、私たちは何をしなければいけないかをもう少し切実感を持って、取り組んでいく必要があると改めて感じたところです。

今日は、タウンミーティングとしては初めてオンラインで実施したので、皆さんにはお手間をかけたか、聞きづらかったか、いろいろな課題もあったかもしれませんが、1時間半、御協力をいただきまして、本当にありがとうございました。

皆さんにたくさんの具体的な御提案や御意見を頂戴することができて、私たちも大変ありがたかったと思っています。

今日、皆さんからいただいたいろいろな御意見を参考にさせていただきながら、第2次さいたま地球温暖化防止対策実施計画の改定につなげていきたいと思っておりますし、また、計画をつくって終わりではありません。具体的な活動を1つずつ積み重ねながら実践をして、少しでも地球温暖化を防いでいくための取組を実施していきたいと思っております。是非皆さん、引き続きの御協力をお願いします。

今日は1時間半にわたりまして御協力いただきまして、本当にありがとうございました。

■ 補足説明

「熱を吸収して太陽光パネルの温度が上がること」について

ご認識の通りの問題が起こるかは、今後検討が必要です。太陽光発電にすると、石油や石炭、ガスなどを燃やさずに電気をつくることができますので、環境に優しいエネルギーであると言えます。太陽光発電のような再生可能エネルギーを市内に増やしていくことが必要だと考えております。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「2050年に排出量をゼロにすることの達成見込み」について

2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロの実現のため、脱炭素先行地域づくり事業や重点対策加速化事業や計画改定に取り組むなど、まずは一つの区切りである2030年度に向けて動いているところでございます。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「国産の割り箸とかをもっと使ってみる」について

本市では、循環型社会の構築や地球温暖化の防止、林業・木材産業の振興、森林整備の促進などに資すること等を目的に「さいたま市内の建築物等における木造化・木質化等に関する指針」を策定し市内建築物の木造化・木質化に取り組んでおります。今回のご意見等も踏まえながら、引き続き、国産・県産木材の利用促進、啓発に取り組んでまいります。

(経済局 農業政策部 農業環境整備課)

「鳥取県のような補助や登録制度を作る」について

本市でも、ZEH住宅に対して20万円の補助金を交付しております。登録制度に関しては、近隣の他市の状況を踏まえ、今後検討してまいります。

(環境局 環境共生部 脱炭素社会推進課)

「街路樹の整備」について

街路樹のあり方については、「さいたま市街路樹維持管理基本方針」に基づき、自治会や地元のみなさまとの調整を行いながら、検討してまいりたいと考えております。

(建設局 土木部 道路環境課)